

# 愛知・岐阜・三重県で1995年に出生した日本人 62,853名中の口唇・口蓋裂発生頻度に関する研究 分担研究報告

愛知学院大学歯学部

夏目長門

研究協力者：鈴木俊夫、河合 幹

要約：1995年1月1日より12月31日の間に出生した日本人62,853名中の口唇・口蓋裂発現率について調査を行った。その結果、94名(0.150%)に口唇・口蓋裂が認められ、口唇・口蓋裂発現頻度は669人に1人であった。

見出し語：口唇裂、口蓋裂、発現率

研究方法：愛知・岐阜・三重の3県下に所在するすべての出産施設に調査依頼を行い、協力の得られた579施設のうち279施設を調査対象施設とした。調査対象者は、62,853名であり、これは同時期の愛知・岐阜・三重県の全出生数109,586名の57.35%である。

下記の項目について記載を依頼した。

1. 施設における総出生数
2. 口唇・口蓋裂児の有無
  - a. 裂型
  - b. 性別
  - c. 出生月
  - d. 出生時体重
  - e. 他の合併症の有無、内容
3. 施設所在地

結果：愛知県の総出生数の53.9%に当たる38,577名(156施設)、岐阜県の総出生数の74.2%に当たる14,987名(79施設)、三重県の総出生数の53.1%に当たる9,289名(44施設)について調査した。

本調査では愛知県は38,577名中に58名、岐阜県は14,987名中に20名、三重県は9,289名中に16名の口唇・口蓋裂児が認められた。その結果、本症の出現率は愛知県は0.150%(1:665.1)、岐阜県は0.147%(1:749.4)、三重県は0.172%(1:580.6)であった。この数値をもとに調査対象

年の本症患者の総出生数を推定すると95%信頼限界内において、愛知県は108.0~108.2名、岐阜県は26.9~27.0名、三重県は30.1~30.2名の本症患者が出生していたと推定される。また、同様に人口動態統計をもとに我が国全体で出生していたと推定される本症患者は1773.5~1777.2名である。

裂型分類についてみると愛知県では口唇裂23

名、口唇・口蓋裂18名、口蓋裂15名、岐阜県では口唇裂5名、口唇・口蓋裂11名、口蓋裂4名、三重県では口唇裂3名、口唇・口蓋裂9名、口蓋裂2名であった。

本調査も愛知県においては15年目を迎え、患者数も愛知・岐阜・三重の3県を合わせると1,000名を超えた。そこで生下時体重が明らかな934名について裂型別に体重を集計したところ、口唇裂2981.5g(±28.9)、口唇・口蓋裂2953.1g(±28.8)、口蓋裂3010.2g(±34.3)、男女別では男3016.4g(±24.7)、女2923.6g(±8.8)であった。また、裂型・性別合併症発現比率について集計したところ男では口唇裂11.8%、口唇・口蓋裂13.0%、口蓋裂22.8%、女では口唇裂8.7%、口唇・口蓋裂19.6%、口蓋裂18.6%であった。また、出生月の明らかな1,018名についてその出生月を集計した。

考察：本研究は1981年より本学の所在する愛知県において愛知県産婦人科医会、並びに助産婦会の協力を得て調査を開始し、1984年から解析プログラムを開発してデータベース化をはかっている。本プログラムには1995年までの1,153名の登録を行った。本データベースに登録された1982~1995年の総調査対象数は764,034名で本症患者は1,094名であったので、本症発現率は0.143%であった。

裂型分類については1981~1995年の1,153名についてみると表6のごとく男では口唇裂230名、口唇・口蓋裂321名、口蓋裂94名であった。女では口唇裂163名、口唇・

口蓋裂200名、口蓋裂145名であった。

われわれの施設においては、データベースにおいて疫学解析を行う場合、病院統計による誤差を最小にするためPrimary caseのみを基本資料とするようにしているが、この方法をとったところで前述のことを防ぎえない。このため、われわれは、本症発現率、季節変動については東海地区の出産施設のものをモニタリングして、本症の発現率に著しい変動が生じた場合は直ちにわれわれの施設に来院した患者集団において、環境要因等を含めた詳細な調査を行う体制をとっているが、現在まで幸いにして本症発現率の著しい上昇は認めない。しかし、今後もこのような状態が生じた

場合に直ちにを即応できるような体制を維持したいを考えている。

最後に本調査に関して御協力を賜りました産婦人科医会、助産婦会の皆様及び調査集計、解析を担当した住田成子秘書に深謝致します。

文献

1. Natsume, N., Suzuki, T., and Kawai, T. : Clinical analysis of cleft patterns of lip and palate, Cong. Anom., 24: 74-82, 1984
2. Natsume, N., Suzuki, T., Kawai, T. : The prevalence of cleft lip and palate in the Japanese. Brit.J.Oral.Maxillofac. Surg. 26: 232-236, 1988

Abstract

Incidence of cleft lip and/or palate among Japanese babies in Aichi, Gifu, Mie prefecture during 1995 1 Jan. ~ 1995 12 Dec.

Nagato Natsume, Toshio Suzuki, Tsuyoshi Kawai

To determine the incidence of cleft lip and/or palate (CL/P) among the Japanese, 62,853, infants born between Jan. 1, 1995, and Dec. 31, 1995 were investigated. 94 infants (0.150%) were found to have the abnormalities; approximately 1.50/1000 live birth. Of these infants the number CL, CLP, CP were 31(34.4%), 38(42.2%), and 21(23.3%) respectively.

表1 調査対象者 (愛知・岐阜・三重)

	調査対象者	総出生児数
愛知	38,577 (53.65%)	71,899
岐阜	14,987 (74.24%)	20,187
三重	9,289 (53.08%)	17,500
合計	62,853 (57.35%)	109,586

表3 本症患者の総出生数の推定

(愛知・岐阜・三重)

愛知	108.0~108.2 名	(95%CL)
岐阜	26.9~27.0 名	(95%CL)
三重	30.1~30.2 名	(95%CL)

表2 本症患者出現頻度 (愛知・岐阜・三重)

	本症患者 (名)	調査対象者 (名)	出現率%	出現頻度
愛知	58	38,577	0.150%	1: 665.1
岐阜	20	14,987	0.133%	1: 749.4
三重	16	9,289	0.172%	1: 580.6
合計	90	64,447	0.140%	1: 716.1

表4 全国における  
本症患者の総出生数の推定

1982年	3117.3	～	3124.1	名
1983年	2467.3	～	2473.5	名
1984年	1862.8	～	1868.0	名
1985年	2088.2	～	2093.4	名
1986年	1955.6	～	1960.7	名
1987年	1948.4	～	1953.4	名
1988年	1964.4	～	1969.3	名
1989年	1801.4	～	1806.1	名
1990年	1577.0	～	1581.8	名
1991年	1410.6	～	1417.3	名
1992年	1473.0	～	1477.0	名
1993年	1684.1	～	1687.5	名
1994年	1491.1	～	1495.4	名
1995年	1773.5	～	1777.2	名

表5 裂型分類 (愛知・三重・岐阜)

単位：名

	口唇裂	口唇・口蓋裂	口蓋裂	合計
愛知	23	18	15	56
岐阜	5	11	4	20
三重	3	9	2	14
合計	31	38	21	90

表6 裂型分類 (3県合計 1981～1995)

単位：名

	口唇裂	口唇・口蓋裂	口蓋裂	合計
男	230 (35.6%)	321 (49.8%)	94 (14.6%)	645 (100.0%)
女	163 (32.1%)	200 (39.4%)	145 (28.5%)	508 (100.0%)
合計	393 (34.1%)	521 (45.2%)	239 (20.7%)	1153 (100.0%)

表7 裂型・性別合併症発現比率

	口唇裂	口唇・口蓋裂	口蓋裂	合計
男	24/204 11.8%	35/269 13.0%	18/79 22.8%	77/552 13.9%
女	13/149 8.7%	33/168 19.6%	24/129 18.6%	70/446 15.7%
合計	37/353 10.5%	68/437 15.6%	42/208 20.2%	147/998 14.7%

1983～1995年 愛知・岐阜・三重3県の裂型性別の  
明らかな1,054名中 合併症不明56名を除

表8 裂型・性別平均体重 mean (+SE)

	口唇裂	口唇・口蓋裂	口蓋裂	合計
男	3025.4 (±39.6)	2989.6 (±36.5)	3083.4 (±60.6)	3016.4 (±24.7)
女	2920.8 (±41.2)	2893.5 (±46.5)	2964.9 (±40.2)	2923.6 (±8.8)
合計	2981.5 (±28.9)	2953.1 (±28.8)	3010.2 (±34.3)	2975.2 (±17.7)

対象患児：1984～1995年 愛知、岐阜、三重  
3県の裂型・体重・性別の明らかな934名

表9 月別出生数

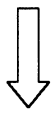
出生月	出生数	出生率	全国平均
1月	68	6.7%	8.7%
2月	82	8.1%	7.6%
3月	91	8.9%	8.3%
4月	83	8.2%	8.0%
5月	74	7.3%	8.5%
6月	75	7.4%	8.4%
7月	91	8.9%	8.9%
8月	97	9.5%	8.9%
9月	76	7.5%	8.5%
10月	101	9.9%	8.1%
11月	83	8.2%	7.8%
12月	97	9.5%	8.2%
合計	1018	100.0%	100.0%

\*1-1982年-1994年 愛知、岐阜、三重3県の出生月の  
明らかな1,018名の合計

\*2 全国平均は過去5年間のものである



**検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用  
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:1995年1月1日より12月31日の間に出生した日本人62,853名中の口唇・口蓋裂発現率について調査を行った。その結果、94名(0.150%)に口唇・口蓋裂が認められ、口唇・口蓋裂発現頻度は669人に1人であった。